

《無題》1961年頃 個人蔵

白髪一雄記念室 第15回展示

没後5年

白髪富士子

前衛美術家としての足跡

私において 無限につながりたい

無限の中の自分の位置を掌握したい

芸術とは悟らすもの
する人をも みる人をも
それは非常に豊かに楽しいもの
同時にひそかにさびしいもの
自分の位置において以外では行われ得ないもの
自分の高さ以上の高さには出ないもの
自分を偽れないもの
おそろしく厳密なもの

作品に手を下す時の、ひたすらなすまり
自身の昇華をみとめる快感

『具体』第4号 1956年7月1日発行より

2020 ~~5/9~~ (土) - 9/13 (日)

尼崎市総合文化センター 白髪一雄記念室
〒660-0881 尼崎市昭和通2-7-16 Tel.06-6487-0806

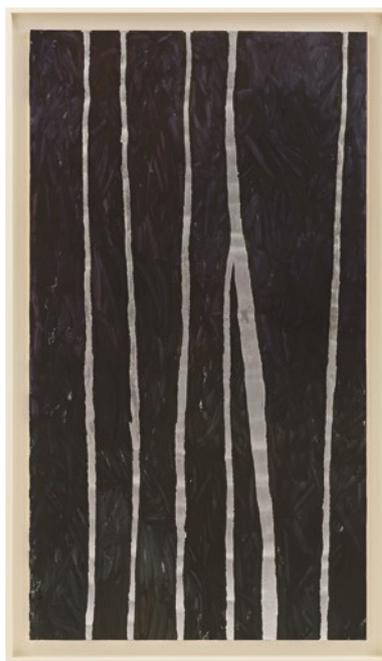
【休館日】毎週火曜日、8月13日(木)～8月15日(土)

【開館時間】10時～17時(入館は16時30分まで)

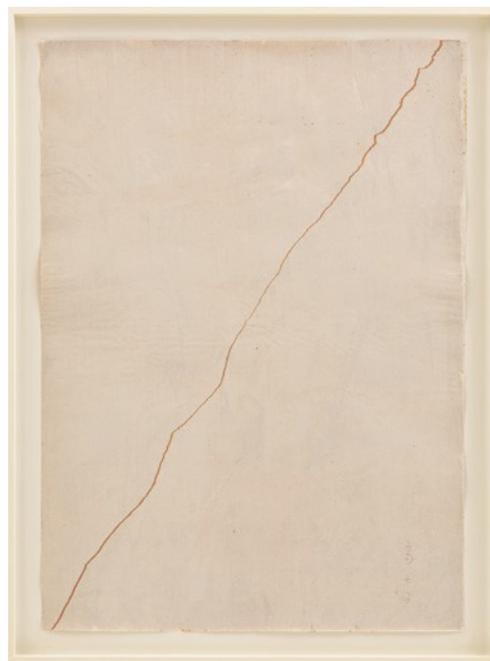
【入場料】一般 200円 シニア(65歳以上)100円 大高生 100円 中学生以下 無料 ※障がい者手帳等をご持参の方は半額、その介護者の方1名は無料。



《白い板》1955年 真夏の太陽にいとむモダンアート野外実験展



《無題》1957年頃 個人蔵



《無題》1955年頃 個人蔵



制作風景 1960年頃



第10回具体美術展会場にて自作の前で 1961年

アクション・ペインター白髪一雄の妻・富士子の没後5年にあたる節目として、若き日の数年間に前衛美術家として活躍した富士子の作品を紹介します。

白髪富士子は1928年大阪市に生まれ、大阪市立大手前高等女学校を卒業後、20歳で白髪一雄と結婚しました。一雄の絵画制作を間近に見るうちに自身も創作に目覚め、作品制作を始めます。1955年に一雄とともに前衛美術グループ具体美術協会に入会すると、具体美術展や芦屋市展を発表の場として本格的に制作発表を行います。長い一枚の板を一本の切り口で分割して空間

による線を創り出した《白い板》や、重ねた和紙を破って画面に表情をつけ、絵具を塗り重ねることによって独特の柔らかな表現を生み出した絵画など、革新的な素材選びとその繊細な感覚により、注目を集めました。

しかし、一雄の評価が高まり活動が多忙となったことから、1961年に自らの創作活動に終止符を打ち、以降は一雄の創作活動を二人三脚で支え続けました。数年間ではありましたが、前衛美術家として才能を発揮した白髪富士子の貴重な作品と資料を公開します。

展示解説

担当学芸員による展示作品の解説を行います。

〔日時〕~~5月23日(土)~~ 6月27日(土)、7月25日(土)、8月22日(土) いずれも14:00～

〔場所〕白髪一雄記念室 〔定員〕各日10名

〔参加費〕無料(白髪一雄記念室の当日入場券が必要です。)

〔申し込み〕不要(当日、直接会場へお越しください。)

同時開催

当館の美術ホール4階と5階で、尼崎市立文化財収蔵庫との共催展を開催します。

尼崎市立文化財収蔵庫出張企画展「綿を紡ぐ・歴史を紡ぐ」

尼崎市総合文化センター企画展「歴史を紡ぐ・今を染める
福本潮子 — 藍の世界
村上由季 — 尼崎の記憶」

会期：2020年7月18日(土) ~~8月9日(日)~~ ※火曜日休館

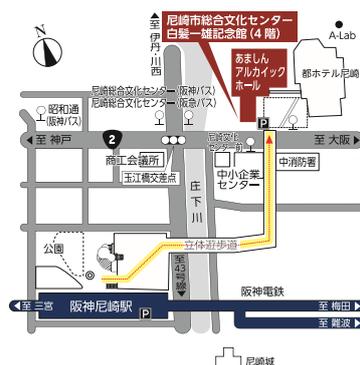
入場料：一般 500円 シニア 250円 大高校生 250円 中学生以下 無料

※尼崎市立文化財収蔵庫の出張企画展のみのご観覧は無料です。

※本展の入場券をお持ちの方は、白髪一雄記念室にもご入場いただけます。

※会期等の詳細は後日 WEB にて掲載します。www.archaic.or.jp

Access



■阪神尼崎駅より
立体遊歩道で徒歩約5分(国道2号線沿い)

■JR尼崎駅より
阪神バス駅南側4番のりば②→
阪神尼崎行「尼崎総合文化センター」下車

■阪急塚口駅より
阪神バス③→「昭相通」下車
阪急バス⑤、⑦→「尼崎総合文化センター」下車

※阪神バスは尼崎市内線
■有料駐車場あり(30分200円/最大1,200円)

阪神電車特急で
「神戸三宮」から
22分 → 阪神尼崎
「梅田」から
7分
「大阪難波」から
20分



白髪一雄記念室 | <https://www.archaic.or.jp/shiraga/>